

77.0%

血液培養実施時の2セット実施率（厚労省定義）

測定値の定義・計算方法

Process

分子：

血液培養オーダが1日に2件以上ある日数

分母：

血液培養オーダ日数

活動のきっかけ

血液培養は、感染症に罹患した患者の血液中に病原菌がいるかどうかを調べる検査です。病原体は血流中に常時存在するわけではなく、1セットの検査では原因菌の特定に適した検出感度とは言えない。血液培養検査1セットのみの検査では73.2%、2セット施行した場合の検出感度は93.9%との報告がある。また検出された菌がコンタミネーションなのか原因菌なのかを判断するためにも血液培養検査は2セット以上（複数セット）採取することが世界的なスタンダードとなっている。複数セット採取実施率をモニタリングすることは感染症治療を行う上で非常に重要であると考え、本改善活動を開始した。

改善活動部門

- 臨床検査部 臨床検査技師

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
今年度は7月-9月において血液培養ボトルの出荷制限に伴い、1set採取を基本としていたためその月は評価から除外している。しかし、制限解除後も初回採取で1set依頼の継続が見られ、その後3か月を経て2set採取の徹底が戻った印象である。制限前と2025年1月以降は90%以上の実施率を維持している。7月-9月を除いた複数セット採取率の年間平均は89.9%であった。今後も複数セット採取実施率90%以上の維持を目標として継続していきたい。また、複数セット率90%を下回った時期の陽性率の平均は約14%、90%以上の時期の陽性率の平均は約11%であり、複数セット採取率と合わせた当院での陽性率の基礎データも確認できたかと思われる。	血液採取の困難な患者での1セット採取の他に、陽性後のフォロー血培で1セット採取のみのケースが見受けられる。フォロー血培の場合も少量の菌を検出する感度を上げるためには複数セット採取が必要であるため、推奨していく必要があると感じた。